

過去3年間の枝肉格付成績の比較と今後の展望

西 谷 篤

(農学部附属農場)

【目 的】

鹿児島で生産される黒毛和種牛は優れた産肉成績を持ち全国的に評価が高い。鹿児島大学入来牧場では黒毛和種を子牛から親牛まで一貫して生産しており、年間約90頭出荷している。しかしながら、出荷された牛肉の格付成績はあまり芳しくない。現在は牛肉の価格が高騰しているとはいえ、ほとんどの格付成績が2等級から3等級である。その原因としてBMS No.および締まりの等級が悪く、特に締まりが原因で3等級から2等級に落とされるパターンがよく見られた。そこで今回、過去3年間の肉牛格付け成績を振り返り、何が原因でこのような現状になったのかを推測し、今後の運営に生かしていくことを目的とした。

【方 法】

過去3年間の肉牛格付成績から出荷月齢、出荷時体重、等級、ロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪の厚さ、BMS No.、締まりについて集計した。また血液プロファイルテストを4回実施し、そのうちのVit. A含有量についてのデータを集計した。

【結果および考察】

表1に枝肉格付成績を示した。出荷月齢は全国平均より1ヶ月ほど高い結果となった。出荷体重に関しては全国平均並の成績を示した。等級についてH15は全国平均より4等級割合が高かったが、ここ2年は劣っている。ロース芯面積、バラの厚さはともに全国平均を下回っている。皮下脂肪は逆に全国平均より高い値を示した。BMS No.は全国平均に比べ顕著に低い値を示した。同様に締まりも全国平均より低い値を示した。ロース芯およびバラは生後10~12ヶ月齢で最大発達時期を迎えるため、その時期の飼養管理が重要である。BMS No.が低い原因の一つとして中期のVit. A含有量が高いことが考えられる。締まり落ちに対しては肝機能を正常に保ちつつ、十分に食べ込ませることが必要であると言われている。

血中Vit. A含有量を比較してみると中後期は全体的に理想値と近くなっていた(図1)。前期については前の2回は理想値に比べ若干低い値を示していた。しかしながら、H17.11.28の結果では前期はほぼ理想値に近い値を示した。この結果は今後の枝肉格付成績に期待できることを示している。

以上の結果から、枝肉格付成績を向上させるためには、肥育前期10~12ヶ月での飼養管理に更に注意を払い、その後は健康状態を維持しつつ十分に飼料を食い込ませさせていけるような工夫が必要であると考えられる。今後はそれらの改善によってA3・A4等級率が常に50%を超えるよう努力していきたい。

表1. 枝肉格付成績の推移

年度	性別	出荷月齢 (month)	出荷体重 (kg)	肉質格付等級割合(%)	ロース 芯 面積 (cm)	バラ の 厚さ (cm)	皮下 脂肪 の厚さ (cm)	BMS No.	締まり
全国 平均値	♂	29.7	720	2等級—46% 3等級—44% 4等級—8%	53.3	7.6	2.3	5.30	3.70
H15	♂	30.9	705	2等級—32% 3等級—41% 4等級—26%	52.4	6.9	2.6	3.68	2.94
H16	♂	30.8	719	2等級—75% 3等級—18% 4等級—5%	48.1	6.8	3.2	2.76	2.30
H17	♂	30.5	712	2等級—45% 3等級—48% 4等級—5%	52.8	7.1	2.9	3.38	2.77
市販配合 飼料 開始後	♂	30.7	694	2等級—29% 3等級—62% 4等級—8%	54.9	7.1	2.8	3.77	2.77

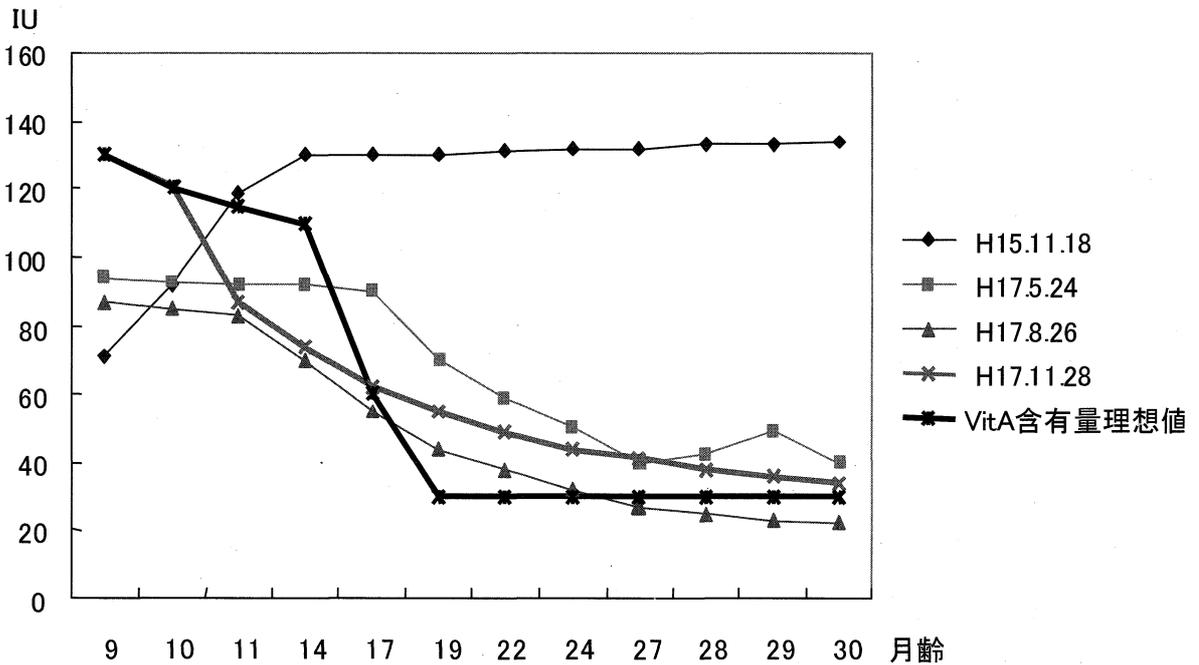


図1. 血中Vit. A含有量